日刊 動労千葉
81.5.29
No. 751
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

第3回 野球大会

ベスト4に幕張・津田沼・佐倉・勝浦チームが進出！

6月12日 千葉公園球場へ

第三回野球大会は、去る五月二一日、千葉市営こてはし球場において、一・二回戦が行なわれた。

試合に先きだち、九時四十分より、十支部約一五〇名の参加のもとで開会式が行なわれ、布施副委員長、準備支部の永田千葉転支部長よりあいさつを受け、つづいて前年度優勝の館山支部加藤主将の力強い選手宣誓で熱戦の火ブタが切られた。

一回戦

＜Aグランド＞

第一試合

館山	0	1	0	1	0	0	0				2
木更津	2	0	1	0	0	3	×				6

若さと情熱の新鋭木更津支部が前年度優勝の館山支部に挑戦。木更津、一回の裏、二番山中のレフトオーバー、三番島田の右中間二塁打の連続長打でまず一点を先取。つづく四番佐野の投ゴロを一塁悪投ではやくも二点をあげる。三回にも一点を追加。平均年令〇〇才の館山支部にくらべ若さにまさる木更津は、六回にも一気に三点をもぎとり、試合を決めた。

一方、館山は、二回、四回に一点づつ返し、シーソーゲームとなるかに見えたが五回以降、木更津・佐野投手の好投の前に加点出来なかった。

二回戦

＜Aグランド＞

幕張	4	3	0	1	5	0	0				13
木更津	1	0	0	0	0	0	0				1

木更津の佐野投手は連投のため苦しいピッチング。強打者を揃えた優勝候補の幕張は、一回佐野の苦しい立上りをつき、ランナーをためての境・篠田の二点二塁打でこの回四点をあげる。

その後も、相手内野陣の乱れなどで二回に三点、五回にも五点をもぎとり、大差をつけ、試合を決めた。

木更津は、一回、3四球で満塁のチャンスに、五番外山の左犠飛で一点どまり。三回にもチャンスはあったが、得点出来ず、連続試合のつかれと、幕張の強打と足の前に敗れた。

＜Bグランド＞

新小岩	1	0	0	0	0	0	0				1
勝浦	0	0	0	0	1	0	0				1
促進ルール							1				2

よくまとまりのある両チーム。結局は投手選となり、相方ゆずらず、一対一のまま促進ルールにもつれこみ、勝浦が逆転勝ち。

新小岩は、一回、安打と2つのエラーで一死満塁に渡辺の犠

第二試合

成田	0	0	0	0	0	0	0				0
津田沼	1	0	0	0	0	0	×				1

さすがにねばり強い両チームだけに、緊迫したゲームが展開され、結局、津田沼が一回の裏、古川のセンターオーバーの三塁打を機にあげた一点を守り逃げ切った。

成田は、三回に七番鈴木が三塁打、五回にも八番石橋が二塁打を放つも、後続を津田沼の小倉の好投にかわされ勝機を逸した。

＜Bグランド＞

第一試合

新小岩	4	0	1	5	0	0	0				10
千葉転	0	2	0	0	0	0	0				2

新小岩は、初回千葉転高橋投手の制球難をついて3四球、3盗塁、一安打、一エラーで早くも四点を先取。

四回にも、連続四球を足場に七番佐藤の二塁打などで大量五点を追加して試合を決めた。

千葉転は、二回に四球とエラーで二点を返し、七回、朝倉が左オーバーの三塁打で追撃かにみえたが、地力に勝る新小岩に及ばなかった。

第二試合

佐倉	0	1	0	0	5	2	0				8
蘇我	0	0	0	0	0	0	0				0

昨年秋野球部を結成して張り切る蘇我支部に対し、登竜の佐倉との対戦。

佐倉は、二回、四球と盗塁エラーで一点を先取。

五回には、一死後一番平田のレフトオーバーの大ホームランをきっかけに、エラーと四死球で満塁とし、六番吉井がセンターへ痛烈にはじき返し、二者生還、その後も2四死球などで合計五点をあげた。

六回にも、代打吉原の三塁打で二点をあげ、大きく水をあけた。

一方、蘇我は、一回に2四球と二塁打で満塁とするも後続なく先制のチャンスを逃し、その後も、三回、六回にも安打で出塁したが単発に終り、佐倉が無難に勝ち進んだ。

打で一点を先行。

勝浦は、二回に六番角野が二塁打を放つも後続なく、五回に2四球後、鈴木の犠飛で同点とし、そのまま、均衡破れず、促進ルールとなり、勝浦が、新小岩を振り切った。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！